農産普及課 情報

アグリ高島

2021年11月号
No.244

イノシシ侵入防止用目隠し資材を現在３集落で設置しており、その効果を現地で調査しているところです。この技術はイノシシの臆病な性格と目の悪さを利用しており、高い被害防止効果が期待できます。防風ネットや防草シートを使用することで容易に取り付けることができ、資材費も安価ですみます。

発　行
滋賀県 高島農業農村振興事務所 農産普及課（〒520-1621高島市今津町今津1758）
TEL 0740-22-6025～6028　　FAX 0740-22-3099

この印刷物は、グリーン購入法適合紙を使用しています。

還元害を防いで水稲単収540㎏を目指そう！

高島市では穂数が確保できず、米の単収が他地域と比べ低い状態が続いています。その大きな原因は「還元害」です（写真）。

還元害は、５月下旬～６月上旬の気温の上昇により、土中の稲わら等の有機物が微生物によって急激に分解されることで発生します。還元害が回復したように見えても最終的に穂数が不足し、玄米のタンパク含量が高くなることから、収量や品質が悪くなります。

還元害が発生する前に、田干しや硫黄を含んだ資材の散布で還元害を防ぎましょう。

表　還元害による収量・品質への影響

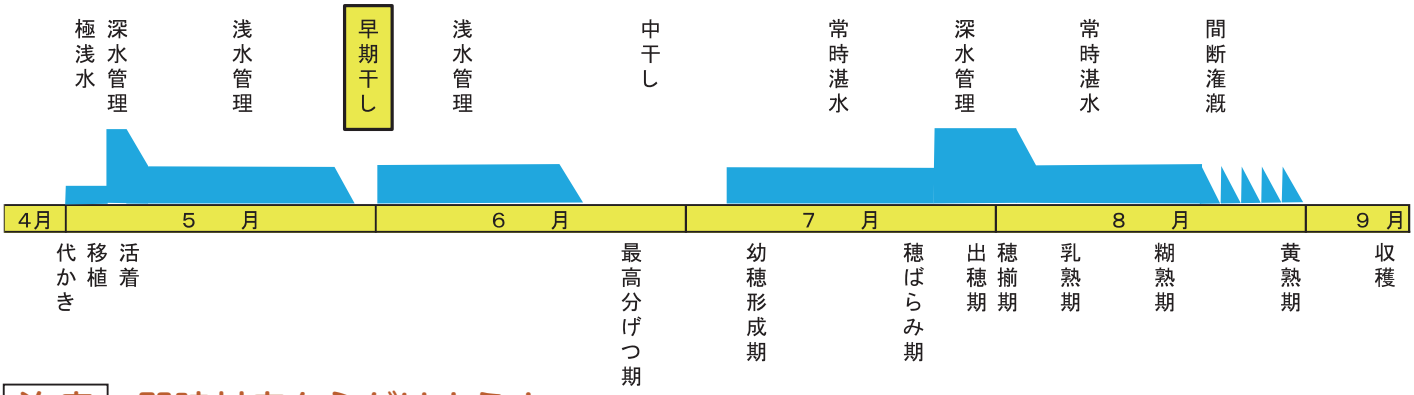
	対健全ほ場比（%）				葉色	蛋白	整粒歩合
	茎数		穂数	収量	成熟期		
	6月上旬	7月中旬			(SPAD)	(%)	(%)
健全ほ場	100	100	100	100	33.5	6.7	78.4
還元害ほ場	63	99	86	76	36.2	7.4	75.4

注）令和2年産「みずかがみ」の高島市におけるデータ

予防　複数の対策で還元害を防ごう！

還元害は、一つの対策だけでは防げないことがあります。複数の対策を講じて、還元害を確実に防ぎましょう。

□稲刈り後に土壌改良資材を散布し、年内に２回耕耘する。
□基肥は、硫安系の肥料を利用する（肥料購入店にご相談ください）。
□本田の除草剤散布２週間後（５月下旬）に、軽く田んぼを干す（早期干し：下図）。
□硫黄を含んだ「畑のカルシウム」等を、育苗床土５㎏当たり100ｇ混和するか、田植え時に苗の上から育苗箱当たり100ｇ撒いて移植する。
□硫黄を含んだ「畑のカルシウム」等を、田植え後に20㎏／10a散布する。



治療　即時対応を心がけよう！

□生育の停滞や葉の黄化等、還元害が出始めたら速やかに落水する。
□硫黄を含んだ「畑のカルシウム」等を、20㎏／10a散布する。

水田での畑作物栽培を成功させるには、複年畑作固定がオススメ！

水田の畑地化をすすめて、野菜類や麦・大豆の収量UP ！

複年畑作固定とは？

複数年または永年にわたり、特定の水田に水稲を作付けせず、野菜類や麦・大豆のような畑作物のみの作付を続けることを意味します。

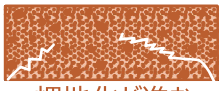
畑作物に適した土に変化させ、収量UP!

水稲ほ場の土

土の粒が細かくぎっしり

水が抜けにくい

畑作固定開始

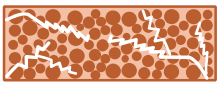


畑地化が進む

土の粒が大きくなり
すき間ができはじめる

複年畑作固定
＋有機物施用
＋心土破砕 など

さらに畑地化促進！



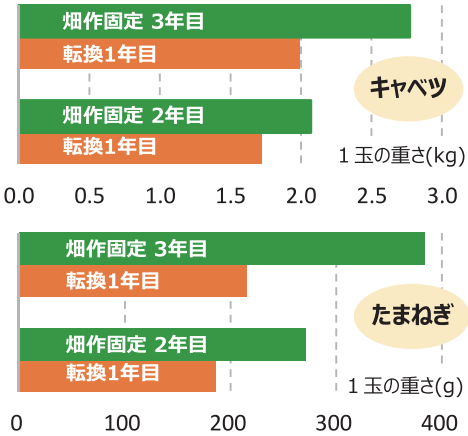
畑作物に適する土に

- 水が抜けやすい！
- 通気性がよくフカフカ！
- 耕すと適度に細かくなる！

畑作物の栽培は「排水性の良さ」が重要です。水稲栽培では土を細かく練って水が抜けないようにしますが、複年畑作固定すると、ほ場の土は団粒化が進んですき間が増え、畑作物に適した状態へと自然に変化していきます。

畑地化をさらに促進させるには、有機物施用、心土破砕、補助暗渠の施工などを行うと有効です。これらの技術は水稲作にとっては意義がない場合もありますが、畑作固定するほ場を決めておけば、特定のほ場に集中して技術を投入できるので、コストや労力を抑えることができます。

■野菜の収量への効果

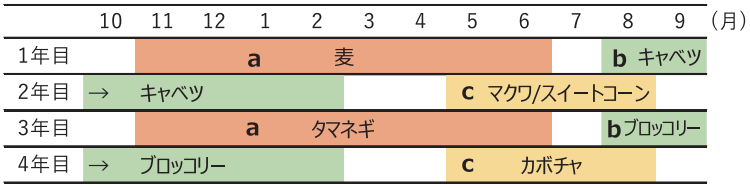


○滋賀県農業技術振興センターでの試験結果
畑作固定ほ場では牛糞堆肥を年１回連用。
「転換１年目」とは、水稲作から畑作に転換して１年目。近接する棒グラフの畑作固定ほ場と同年に栽培した結果を示す

堆肥などの有機物には、土の団粒化促進、通気性改善、腐植や微生物の補給、地力維持などの効果があります。すぐに効果が明確に現れるとは限りませんが、毎年投入し続けることが重要です。牛糞堆肥であれば、10aあたり４t/年程度が一般的な投入量の目安です。

複数の品目を組み合わせてリスク回避を

■作付体系の例



畑作固定すると、連作障害や畑地雑草の増加、園芸品目の需給状況による価格下落等が問題になることがあります。

上図のように複数品目を組み合わせると、効率良くほ場利用ができ、リスク分散にもなります。

作期		栽培できる品目
a	秋植え 春～初夏どり	大麦・小麦・たまねぎ・キャベツ・えんどう・そらまめ など
b	夏植え 秋冬どり	大豆・キャベツ・ブロッコリー・はくさい・にんじん・なばな・かぶ・だいこん など
c	春植え 夏どり	まくわ・かぼちゃ・キャベツ・すいか・にんじん・エダマメ・スイートコーン など

なお、導入する品目を決めるにあたっては、ＪＡ等と相談して出荷販売先を確保しておくことが重要です。

畑地雑草の増加を防ぐには、雑草のタネを落とさない管理が重要です。作物を作付していないときでも放置せず、雑草がタネをつける前に鋤きこみましょう。また、畦畔から防除の難しい雑草が侵入することが多いので、畦畔際の管理には特に注意し、早めに対処してください。

障害者の活躍の場が農業現場で広がっています！

～「農福連携」で、ともに暮らし、ともに働ける地域づくりを～

農福連携って？

障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。

この取組は障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性もあります。

高島での事例はあるの？

マキノ町で原木椎茸と有機野菜等を栽培されている**「みなくちファーム」（水口淳さん、良子さん）**では、４年ほど前から「藤の樹工房」（就労継続支援Ｂ型事業所）に畑の除草、野菜の収穫やマルチの処分等の作業を依頼されています。

水口さんに農福連携をしてよかった点をお聞きすると、「事業所の利用者さんにはいろんな方がおられて、好きな仕事も様々。結果として、様々な仕事に対応していただいている。また、事業所の指導員さんに仕事の内容を伝えておくと利用者さんに分かりやすく説明してくれ、こちらが逐次説明をしなくても作業をしてくれている。**若い人が多く、徐々に作業が上手になっていくのを見ると、依頼している側としてもうれしい。**」とのことでした。

藤の樹工房の青山主任生活指導員さん

「作業をほめてもらい、賃金をもらえるのが自信につながっている。事業所でも野菜を生産しているが、**みなくちファームでの経験が自信となり、生き生きと農作業をするようになった。**」

「農福連携」活用のコツは？

水口さんによると、農家は「暑い中、農作業を手伝ってもらえてありがたい」、事業所は「仕事を提供してもらえ、賃金がもらえてありがたい」と、**双方がお互いを認め合う「いい関係」が大切**とのことです。

「農福連携」に興味が湧いてきたけど、どこに相談すればいいの？

滋賀県では、農福連携の推進に向け様々な事業を行っています。ご関心のある方は、当課にご相談ください。